

# 百万遍に立つ

# あの人たちに迫る

普段百万遍を通行していて皆さんは何を感じますか？ 通行量が多く危険に感じている人もたくさんいると思います。今回はそんな百万遍で自転車利用のルールを守りマナーを良くしてもらおうと活動なさっている指導員の方々にインタビューしてみました。このインタビューを通して自転車利用マナーが良くなるきっかけにできればと思います。（茶休）

## 指導員さんへ突撃インタビュー

——ズバリお聞きします。あなたたちは一体何者なんですか？  
私たちは京都市行財政局サービス事業推進室の職員です。平成23年6月から左京区へ移転してきたのですが、地元である百万遍を起点として、みなさんに自転車利用のルールを守ってマナーを良くしてもらいたいという思いから活動を始めました。交通事故から命を守りたい、命の大切さをしっかりわかってほしいという思いで取り組んでいます。

——自転車利用者に対して普段どんなことを呼びかけていらっしゃるのですか？

主に自転車横断帯を走ってもらうこと、イヤホンやスマホ、傘を使用しながらの走行をやめること、逆走や並走をやめることなどです。こうした行為に加えて、片手運転やスピードを出した運転がいかに危険かということをよくわかっていない人が多いですね。自分だけでなく周りの歩行者にとっても危険ですので、やめていただきたいです。また、歩道を走るときは、原則徐行するというのを忘れないください。

——今まで活動してきてどんなことがつらかった、あるいは嬉しかったですか？

つらかったことは、無視されることです。危険だと思って注意しているのに聞いてもらえないのは悲しいです。

反対に嬉しかったことは「ありがとう」って言ってくれる人がいることです。京大生からも言ってもらえたときは特に嬉しいです。そういうときに私たちの活動をやってきてよかったと思います。

——やりがいとはどんなことですか？

毎日の積み重ねにやりがいを感じています。百万遍で活動している私たちは、大学生に嫌われている存在だと思うんですけど、実は皆さんの顔を覚えているんです。その中で私たちの注意を受けて交通ルールを守るようになった人を見るとやってよかったなと思います。「あ、あの人はちゃんと横断帯を走ってくれている」など、私たちが見守っているということを知っておいてくれると嬉しいです。

——最後に京大生の自転車利用の現況などについて率直にお願います。

私たちの注意を素直に聞いてくれる人もいて、活動を始めた当初よりも自転車利用マナーは良くなってきています。私たちも注意を聞いてくれる人には自然とありがとうという気持ちになります。

時々大声を出して注意することがありますが、これは本当に危ないと思っての行動です。交通事故で亡くなるというのは、被害者と加害者の両方に重い負担を背負わせることになります。「命を大切に」、このことをしっかり考えてみてほしいです。

——ありがとうございました。



▲突撃インタビューの様子